

# ○市町村特集

## 宇検村，伊藤忠商事とマングローブ再生プロジェクト始動

宇検村では、昭和 30 年代の干拓事業により消滅した干潟、そこに自生していたマングローブ林の再生を村の施策として 2014 年からマングローブ林を形成するメヒルギ（※1）の植樹に取り組んでおります。マングローブ林は「海のゆりかご」とも呼ばれ、水辺に住む生物の生息地となるだけでなく、その葉や果実は生物のエネルギー源となり、生物多様性の保全に貢献します。マングローブは、濃密に発達した細根が常に伸長と枯死を繰り返すこと、また枯れ落ちた枝葉が泥炭となり蓄積することで、土壌中に高密度の炭素を隔離することから、単位面積あたりの CO<sub>2</sub> 吸収量が多いことで知られています。マングローブのような海の生態系によって隔離される炭素は「ブルーカーボン（※2）」と呼ばれ、新しい CO<sub>2</sub> 吸収源として期待されています。



▲事業により埋め立てられたと思われる区域

植樹を始めた頃は、専門家からの指導を頂きながらの実施で、苗を作るためのメヒルギの種も宇検村から一番近い瀬戸内町の小名瀬集落から頂いてきて、苗を作って植樹するという作業を公募して参加者を募り実施して参りましたが、2017 年から田検小学校の 3・4 年生を対象として、環境学習の一環として、子供たちが育てたメヒルギの苗を使ったマングローブ林の植林作業を授業の中で引き続き取り組んでいます。

この取り組みに対して、環境保全を自社の社会貢献活動基本方針のひとつに掲げる伊藤忠商事株式会社より支援の提案がありまして、この度、マングローブ植林事業における支援を受けることで合意いたしました。

この合意では、取り組みに係る事業費の一部を伊藤忠商事株式会社から支援を受け、宇検村の次世代を担う子供達が宇検村のかけがえのない自然を愛し、守り育てていけるよう、より良い事業へと発展させていくと共に、宇検村と伊藤忠商事株式会社は、本プロジェクトによって吸収される CO<sub>2</sub> を国土交通大臣認可法人である「ジャパンプルーエコノミー技術研究組合」が発行する「J ブルークレジット（※3）」として、日本で初めてのマングローブ由来のクレジット認証を受けることを目指します。

### ※1 メヒルギとは

メヒルギは鹿児島県から沖縄県に自然分布するマングローブ林を形成する植物の一種です。メヒルギ等によるマングローブ林の再生や保全は、自然環境や、それと共に育まれてきた自然と共に生きる地域の文化の保全に役立つと考えられています。



▲メヒルギの苗

## ※2 ブルーカーボンとは

森林など、陸上の植物が吸収した炭素（カーボン）を「グリーンカーボン」と呼びます。一方で、マングローブ、塩性湿地、海藻（アマモなど）などの海洋生成物が吸収した炭素のことを「ブルーカーボン」と呼びます。特にマングローブは、単位面積当たりのCO<sub>2</sub>吸収量が多いことで知られています。

ブルーカーボンについて（国土交通省）

<https://milt.go.jp/kowan/content/001394943.pdf>

|        | 平均値  | 最大値  |
|--------|------|------|
| マングローブ | 68.5 | 68.5 |
| 海草     | 5.8  | 33.4 |
| ガラモ場   | 2.7  | 5.1  |
| コンブ場   | 10.3 | 36.0 |
| アラメ場   | 4.2  | 7.9  |
| 湿地・干潟  | 2.6  | 2.6  |

▲吸収係数 (t・CO<sub>2</sub> / ha / 年)

(出典：浅海生態系における年間二酸化炭素吸収量の全国推計（桑江ほか、2019）)

<https://doi.org/10.2208/kagin.75.10>

## ※3 Jブルークレジットとは

国土交通大臣認可法人である「ジャパンプルーエコノミー技術研究組合」<https://www.blueeconomy.jp>が発行するCO<sub>2</sub>吸収量クレジットです。企業等のクレジット購入者は、削減努力だけでは減らせない温室効果ガスの排出量を、購入したクレジットでオフセット（埋め合わせ）をすることができます。